

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成25年10月発行

第125号

発行所

和歌山県看護協会

〒641-0036

和歌山市西浜1014-27

TEL:073-446-0605

FAX:073-446-0899

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人

木村 佐多子



写真撮影：広報委員

CONTENTS

- 地区支部だより 2～3
- ふれあい看護体験 4～5
- 訪問看護ステーションだより 5
- 保健師のコーナー 6
- 助産師のコーナー 6
- 看護師のコーナー 6
- 専門認定看護師のコーナー(トピックス2013) 7
- 地域連携のコーナー 7
- 医療安全数珠つなぎ 8
- 私の〇〇 8
- リレーエッセイ 友達の輪 8
- My Hospital 9
- WLB 推進ワークショップ 9
- まちの保健室・看護のお仕事相談 10
- プレゼント 10
- 和歌山県看護協会の動き 11
- 平成25年度第1回施設会員代表者会 11
- 知って得する看護協会だより 12
- ご案内 施設の管理者・教育担当者の皆様へ 12
- 禁煙外来のご紹介 12

和歌山県看護協会 会員数

平成25年10月1日現在

会員総数	5,651名
名誉会員	2名
保健師	132名
助産師	201名
看護師	5,008名
准看護師	308名

地区支部

伊都地区支部

支部長 小松 仁美

平成 25 年 5 月 18 日(土) 9:00 ~ 12:00 「JA やっちゃん広場」において、1日まちの保健室をおこないました。地元で採れた農産物を買いにいられた方々に声をかけ、血圧測定・体脂肪・骨密度測定・栄養相談など 273 人に実施させていただきました。健康に関心のある方も多く好評でした。このように活動をとおり看護協会の PR となるので、「老人看護月間行事」においても、地域に出向いて行く予定です。



那賀地区支部

支部長 曾和 とも子

7月6日(土)平成 25 年度地区支部集会を開催し、第1回目の研修会『感染症予防のイロハ』というテーマで公立那賀病院感染管理認定看護師 永崎昌枝先生による講演を行いました。68 名の参加で参加者の意見、具体的な例や動画による研修で内容がわかりやすかった。感染防止は『手指衛生』が一番!再認識した研修会でした。



和歌山地区支部

支部長 岡室 優

平成 25 年度 地区支部集会および研修会を 6 月 8 日(土曜日)、和歌山看護専門学校で開催しました。研修会のテーマは、「高齢者看護リレー講義 I」で高齢者の失禁、失禁ケア、口腔ケア、転倒予防について各専門の講師をお迎えしお話をいただきました。現在は、9月の「まちの保健室」の開催のための準備をしています。



海南・海草地区支部

支部長 上碓 佳恵

平成 25 年度地区支部集会及び第1回研修会を 6 月 29 日(土) 海南市保健福祉センターにおいて開催し、集会 97 名、研修会 100 名の出席がありました。

研修会は和歌山ろうさい病院第2呼吸器内科部長の辰田仁美先生に「女性専門外来について」というテーマで講演していただきました。女性医師による女性専門の外来で、女性特有の冷え性など身体の不調について漢方薬も使い治療されています。解りやすく教えていただき好評でした。



有田地区支部

支部長 小原 喜代子

7月6日にきびドームで、平成25年度第1回研修会を開催致しました。研修会は、独立行政法人病院機構和歌山病院副院長 駿田直俊先生に「結核の知識と対応について」の講演をして頂きました。和歌山県は、2011年の結核の罹患率が全国3位、結核死亡率が全国1位と高く、一般病棟に入院後に結核と診断されるケースもあります。結核の病態生理、感染予防、接触者の対応等について、わかりやすく

講義をして頂きました。



日高地区支部

支部長 西岡 倫代

日高地区支部では、6月29日に平成25年度第1回地区支部会員研修会を御坊保健所で開催しました。研修内容は、「災害看護」というテーマで「日本赤十字社和歌山医療センター石丸昌美先生」より災害支援について経験も交えながらご講演をいただきました。その中で石巻赤十字病院の震災直後の映像も紹介され、緊迫した中で落ち着いて初動体制確立が行われていたことが印象的でした。やはり、平時からの準備が必要であると実感しました。今後の予定として、10月に老人看護月間行事として老人大学で健康相談等を開催します。



田辺地区支部

支部長 林 弘子

6月1日支部報告会及び第1回研修会を開催しました。

「緩和ケア」というテーマで、がん看護専門看護師北田なみ紀先生にご講演いただき、73名の参加がありました。事例検討やグループワークを取り入れた研修で、患者さんと関わっていくにあたり、対応のヒントが多く自信になった。他施設の看護師と話し合う事で他施設の考え方や方法を知れよかったです。又、看看連携の第一歩になります等支部を元気にする感想を寄せていただきました。



新宮・串本地区支部

支部長 杉山 文栄

平成25年度第1回研修会を8月10日(土)に「明日からの実践に役立つフットケア」(講師:新宮市立医療センター日本糖尿病療養指導士 城台咲子氏)というテーマで開催しました。

糖尿病の概要からフットケアの目的とポイントを講義形式で、その後フットケアを実際に行いました。41人の参加者からは、「実技があり、とても解りやすかった」等の感想を頂き、大変好評でした。

今後も実践に活かすことができる研修会を企画する予定です。



ふれあい

医療法人 南労会 紀和病院

参加者の感想 初芝橋本高等学校 西田 紘子

今日1日看護師の体験をしてみても思ったことは、「大変で忙しい」と言うことでした。私が想像していた看護師とは全然違ってとても驚きました。でも、いろいろと体験をさせてもらってますます看護師になりたいと思いました。

施設側の感想

最初は不安や戸惑いが見られていましたが、患者さんの巧みな話術で笑顔も見られるようになりました。皆さん素直で、どんなことにも興味を持って見学されていたのが印象的でした。この体験が、進路決定や成長に役立てていただければと思っています。

辻本 さちこ

医療法人青松会 河西田村病院

参加者の感想 和歌山信愛高等学校 坂下 弥由

私は河西田村病院で、普段見られない医療の現場を見て、血圧・ナースコールなどの体験をさせていただきました。その中で最も印象深かったのは経管栄養で、患者さんの消化管内に流動食が詰まると、命に関わるので、実際にしてみると緊張しました。このような貴重な体験を通し、将来看護師になりたいという意識が強くなりました。確かに看護師は責任感のある職業ですが、やりがいがあるので、私も患者さんを助けたいと思いました。

施設側の感想

バイタル測定で音が聴けた時の学生さんの目の輝きがとても印象的でした。人工呼吸器や経管栄養、持続点滴中の患者様のケアを見ていただきました。真剣な表情の学生さんを見て、私も初心を思い出すことができました。

伊藤 詠子



紀和病院



河西田村病院

医療法人愛晋会 中江病院

参加者の感想 星林高等学校 山路 実季

今日は、中江病院で色々な話を聞かせていただいたり、直接看護の現場を見せていただき本当にありがとうございました。看護師の仕事とは、どのようなものなのかを詳しく知ることができ、私自身の将来につながることでばかりでした。

今日、初めて患者さんと看護師さんのコミュニケーションを見たり、どういうことをしているのかなどを直接自分の目で見ることで、本当によかったです。

亀田さんのお話は、本当に分かりやすく、看護の現状などしっかりと教えてくれて、本当に役に立つことばかりでした。これから先、看護学校へ進むための色々なことを覚えていただいた気がします。

患者さん一人一人とのコミュニケーションをとるのは、本当に大変そうだなと感じました。プライバシーはあるし、色々患者さん自身も感じると思うから、大げさな心を開いてもらえるように努力することが大切だなと改めて思いました。

看護師は、オールマイティーに仕事できることが大切だと聞いて、本当にそれができなかったら、看護師として成り立たないんだなと思いました。私も将来、なんでもテキパキこなして何でもできるような看護師になりたいです。

中江病院に看護体験にこさせていただいて、本当によかったと思っています。私は、今日で、よりいっそう看護師になりたいと思いました。大変なのは当たり前だけど、その分やりがいをすごく感じる仕事だとおもいます。

これから看護学校に進学するために、まずは勉強して、看護学校で色々なたくさんの知識を身につけて、将来医療の場で活躍できるようにがんばります。

施設側の感想

今回参加された方が医療社会で看護師として希望を持ち、忍耐強く人と人の中に入り看護のすばらしさを知ってほしいと思い、自分の姿勢をきちんと相手につたえることができ、大切なコミュニケーションの方法など看護師として人間形成と精神力への一番大切なことを伝え、今、患者様がどのような思いで床上生活を送っているかを直接見学して頂き、自分の生活との違いを知り看護の「手と目」が役割りを担っていることを体験しました。本当に一日ありがとう、そして次に繋いで下さい。

亀田 美恵子

看護体験

独立行政法人国立病院機構
和歌山病院

施設側の感想

参加者のみなさんが、リラックスして楽しんでもらえることを一番に取り組みました。ほぼ全員が看護師志望ということで、その意志がより固いものになってくれたら幸いです。そして、将来一緒に働くことができれば素敵ですね。
長岡 修司

参加者の感想

紀央館高校 正木 弥恵

今回、ふれあい看護体験に参加して色々な体験をさせてもらうことができました。血圧を測ったり、友達同士で心臓の音を聴いたり、初めての体験でした。車イスに乗って人に押ししてもらいましたが、少し怖い感じがしました。実際に患者さんと会話させてもらって、最初は何を話していいのか不安でしたが、少しずつ話をしていくと、笑顔で答えてくれたので嬉しかったです。看護体験に参加して本当によかったと思いました。

紀南病院



和歌山病院

社会保険
紀南病院

参加者の感想

私は妊婦さんや赤ちゃんがいる病棟に行きました。実際に妊婦さんのお腹を触らせてもらったり、お腹にいる赤ちゃんの心臓の音を聞かせてもらいました。また出産したばかりのお母さんの疲れをとるためにアロママッサージをしながら見学させてもらいました。私はマッサージを受けていないのにと癒されてしまいました。看護師さんの患者さんへの対応、次々と仕事をこなしていく姿はとてまかっこよく、看護師さんへの憧れが強くなりました。

施設側の感想

実際に患者様と接することで看護というものがどういうものなのか学んで頂けたのではないのでしょうか。患者様の命に寄り添うことは大変なことですが、今回の経験で看護師になりたいという思いがより一層深まれば幸いです。

前地 瑞保

訪問看護ステーションだより

「いつも笑顔で思いやりのある看護を」

公益財団法人白浜医療福祉財団 訪問看護ステーションたんぼぽ

所長 小 嵐 明 子



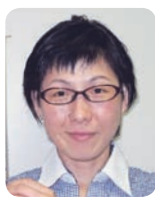
当ステーションは観光地白浜にあり、1997年6月に開所され17年目を迎えました。スタッフは 看護師12名・理学療法士5名・事務員1名です。訪問地域は、白浜町内・田辺・上富田と広域にわたり、山間部の訪問も多く1日に100km走行することもあり日々、奮闘しています。また、財団内でネットワークが繋がっており病院・診療所・訪問看護がスムーズな連携が図れるようになっていきます。

在院日数が短縮されるなか、在宅酸素・人工呼吸器など医療ニーズの高い方が増えつつありますが、本人・家族の思いに寄り添い、緊急時の対応や看取りにも積極的に取り組んでいます。さらに、看護学生の実習を受け入れ、後継者になる学生の指導に関り、リハビリ職員が地域の転倒予防教室に参加し地域との交流を持つようになっています。

「地域に根ざした医療機関として、誠実さと思いやりをもって質の高いサービスを提供し、健康・福祉のレベルの高い地域づくりに努めます」という財団の理念の下、他職種と連携を図り、笑顔を忘れず、思いやりのある看護を提供し、療養される方が住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、地域に根ざした訪問看護ステーションとして努めたいと思います。

保健師のコーナー

保健師職能委員 塩崎裕美



最近、阿川佐和子さんの著書「聞く力～心をひらく35のヒント～」(文春新書刊)を読みました。話の切り出し方、相手の話を引き出す相づちの打ち方、話を深める切りかえし方、本音の引き出し方など、自分が無意識のうちに行ってきたこともありましたが、同時に「こうすればいいのか」という新たな発見もたくさんありました。「聞く」ということは、簡単なようで非常に難しいことです。なぜなら、それは一見「受け身」でいて、それを「能動的に行う」必要があるからです。人の話を聞くためには、予備知識を十分に用意し、その人のどこ

に切り込んでいったらよいかを予測しつつ、臨機応変に話題を提供していく技術が要求されます。

平成25年3月に出された「地域における保健師の保健活動に関する検討会報告書」には、「地域を『みる』『つなぐ』『動かす』ことが保健師活動の要である」とあります。地域を「みる」ためには、各種統計データを受け身で「見る」だけではなく、能動的に地域に出向き住民等から直接聞き、触れ、感じる事が重要です。

今年度の研修会・交流会は、保健師活動の基本となる「みる力」「つなぐ力」「動かす力」のスキルアップを目指していただける内容となっていますので、皆様のご参加をお待ちしております。

助産師のコーナー

助産師職能委員 椎木千寿



助産師職能委員会に参加させていただき2年目に入りました。はじめは分からないことが多く不安もありましたが、委員会に参加することで各施設の方々との交流から学ぶこともたくさんあり勉強させて頂く機会になっています。

今年度は日本看護協会助産師職能からのクリニカルラダー普及活動が開始したり、新人助産師研修会など新たな活動に取り組んでいきます。新人助産師研修会においては新人助産師の基本的な臨床実践能力を獲得することを目的に、多くの講師の方々が講義を行って下さいます。

この研修を通して助産診断、助産技術を学び、日々の助産実践に役立ててくれることを願っています。また助産師の能力強化のためのクリニカルラダーは助産師としての力を発揮するため、また助産師が自信を持って母と子のためにケアを提供するために必要なものになってくると考えます。

普及するまでには時間がかかるかもしれませんが、今後研修も予定されていますので私もみなさんと一緒に学びを深め日々の仕事に活かしていけるようにしたいと思います。

今後もさらに充実した研修を開催できるように努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅰ 中野文代

昨年より看護師職能委員として参加させて頂いています。委員会では毎回活発な意見が飛び交います。看護師という職業に誇りを持ち、質の良い看護を提供する為に自分達は何をしないとイケないのかを具体的に検討しています。

そこで、三職能合同研修をはじめ、専門・認定看護師交流会、准看護師研修会、今年度から男性看護師研修会等それぞれの立場でスキルアップを目指す為に様々な企画を検討しています。又、研修会後のアンケートは全て集計して今後の研修会への参考にさせて頂いています。特にご意見や感想、希望は出来るだけ取り入れようと検討していますので、これからも皆様の貴重なご意見をお

願い致します。

昨年は日本看護協会の推進する夜勤交代制勤務についての実態調査を行いました。どこの施設も人員不足という問題を抱えながらも働きやすい環境作りに努力されているのが伺われました。お忙しい中アンケートに答えて頂き、頂いた情報を今後の活動に役立てたいと思います。看護協会活動のPRの一つとして黒潮の中の看護協会だよりを作成しています。皆さんが興味を持てるように一番旬な話題を取り上げています。是非目を通して下さい。職能委員会の活動、特に委員の皆様の意見を拝見でき、私自身とても貴重な経験になりました。この機会を与えて頂き感謝いたします。

看護師のコーナー

看護師職能委員会Ⅱ 角敬子



看護師職能委員会に参加させていただき今年で2年目になります。1年目は、職能委員の役割も分からないままの参加でありましたが、看護師職能委員会Ⅰへの参加により、看護職の労働環境改善に向けての実態調査をおこなうなど、重要な役割を果たしていることを

を知りました。

今年度より、看護師職能委員会Ⅱへの参加となりましたが、私は介護老人保健施設に勤務しており、在宅復帰を目標に置きその人らしい生活を送れるような関わり、支

援を大切にしています。

利用者のニーズや家族背景も様々であり、医療度、介護度の高い方が多くなってきています。また、最近は施設での看取りを希望される方もあり、対象者の尊厳に十分配慮し、安らかな終末を迎えられることが大切です。心に寄り添った看護を行っていくためには、看護師のスキルアップ・質の向上が必要になってきます。

今年度も、出前研修を予定しており、介護・福祉・在宅で働く看護職の資質向上に向けて、地域の看護職の方々と一緒に学びながら充実した活動内容にしていけたらと思っています。

「皮膚・排泄ケア看護領域の活動について」

新宮市立医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 玉置美和



皮膚・排泄ケア認定看護師は創傷・オストミー・失禁の3領域を対象とした専門ナースです。この領域の原点はストーマケアから始まりました。そしてストーマリハビリテーションへと発展し、排泄物による皮膚障害を治癒させる技術から失禁・創傷へとその専門性に広がりを持つようになりました。

近年入院期間の短縮に伴いストーマケア、創傷ケア、失禁ケアともに医療施設から在宅へとフィールドが広がっています。今後は1施設に複数の認定看護師が必要となる時代になり、米国のWOCナースがそうであるように3分野の中での活動も細分化されてくる時代がくると言われています。

私は認定看護師取得と同時に褥瘡管理者専従となり、3年目に入りました。褥瘡管理者は院内における褥瘡対策に関するコーディネーター役であると同時に、患

者のケアを直接的に実施し質の高いケアを提供することも望まれています。しかし一人で褥瘡対策のすべての役割を担うことは不可能です。現場の業務内容や煩雑さを理解したうえで理想論だけではなく、実践可能な方法をスタッフとともに模索しながら、段階的にチーム医療の体制整備・システム構築などを行う必要があります。

褥瘡管理者となった当初は役割の大きさに比べて自分の無力さを痛感し、認定看護師としての自信さえ持てずにいました。そんなとき支えになったのは、患者さんからかけていただいた感謝の言葉でした。その言葉は、私が自分にできる役割を探して皮膚・排泄ケア認定看護師を目指していたことを思い出させてくれました。今後活動していく上で、初心を忘れることなく「緻密な観察と丁寧なケア」を常に心がけて患者との関わりを大切にしていきたいと思います。

地域連携のコーナー

公立那賀病院 『地域医療室』 のご紹介

退院調整専従師長 殿 最 洋 子



当院の地域医療室には担当事務員、社会福祉士、臨床心理士、看護師が配置され、計10名で業務に当たっています。各医療機関からの紹介の予約や紹介状返書の整理、医療福祉相談、転院調整、退院調整、また、地域の基幹病院として那賀地域医療ネットワークの先生方との勉強会や

連携会議の共催等、業務は多岐にわたっています。

地域医療室での私の役割は退院支援が主です。退院支援が必要な患者をスクリーニングできているか、退院支援計画書に基づいた支援ができているか、また病棟カンファレンスに参加し、現場の生の声を聞かせてもらっています。

H23年2月に立ち上げた「退院調整チーム」は2年半が経過しました。各病棟の退院調整リンクナースが

「より良い退院支援をしたい」との思いから、全看護職員の意識付けに取り組み、スムーズな運用ができるようになってきました。当初は「入院時から退院の話をするなんて」と患者や家族からの言葉をいただくことも多々ありました。しかし、現在では「早くから説明をしてもらったおかげで退院までにサービスが整った」「家での看取りはあきらめていたけどこれなら帰れる」と嬉しい言葉を頂けるように変化しています。

社会福祉士は多くの情報を持っており、看護師では解決できない諸問題に根気強く関わり、よりベストな状態で退院や転院に関わることのできる当院の宝刀です。

職種は様々ですが、「地域住民や那賀地域医療ネットワークの先生方から信頼される病院を目指す」という信念のもと、今後もより一層、一致団結して活動する所存ですのでよろしくお願いいたします。

医療安全

数珠つなぎ

海南医療センター

大谷 千佳子



平成 24 年に専従の医療安全管理者が出来、今年その任務を引き継ぐことになりました。

当院は、平成 25 年 3 月に新築移転し電子カルテが導入されています。

開院当初は、電子カルテの運用によるインシデントが多かったので、今年の院内の医療安全管理研修

として「電子カルテの運用におけるヒューマンエラーとシステムエラー」を企画しました。

今後も、職員のリスク意識が高まるような活動を地道に行いたいと思います。

次回号に紹介させていただく方は
恵友病院 南方 知春様です

私の



《私の尊敬する彼女たち》

医療法人三日月会 月山医院 森岡 みどり



私は、今の職場に勤めて 10 年目になります。今日まで続けてこられたのは小児科が好きということが一番ですが、もうひとつ理由があります。それは、私が看護師 1 年目の時に教育して下さった先輩で、小児科に来ないか声をかけて下さった先輩の存在です。何でも話せる先輩で、いつも一番そばで私を支えてくれています。

もうひとり大切な同僚がいます。彼女は、とてもパワフルで、チャレンジ精神旺盛で、夢を実現する力を持っています。私が辛いときじっと話を聞いてくれました。

私は、彼女たちがいたから続けてくることができました。私も彼女たちのように仲間を支えられる自分でありたいと思います。

リレーエッセイ 友達の

輪

Vol.46

国保日高総合病院 早田 美恵

平成元年から助産師として働き始めました。現在は御坊市にある国保日高総合病院で勤務しています。当院は産婦人科、小児科、内科の混合病棟で業務内容也多岐にわたり大変ですが、生命の誕生の場で仕事ができる喜びを感じながら自分にできることを精一杯がんばる毎日です。

また、来年度から看護専門学校も併設されるため学生の受け入れと、卒後も当院で働きたいと思えるような魅力ある職場を作る事も大切な仕事であると思います。



今回は、新宮医療センター
植田 啓子 さんをご紹介します。

My Hospital

和歌山県立医科大学
附属病院 紀北分院



自施設における 活動や最新情報

看護部長 小松 仁美

紀北分院は平成 22 年 9 月に新築移転し、地域に密着した医療をおこなうことを使命としてスタートしました。当然、大学病院ですので教育・診療・研究の使命もあります。

紀北分院の立地しているかつらぎ町は、高齢化率 32.3%と 3 人に 1 人が高齢者です。全国的にも急速に高齢化が進み、2025 年には超高齢社会が到来します。かつらぎ町はすでに高齢者中心の地域となっています。紀北分院を受診する患者の多くは 70 歳以上です。地域の対象を考えますと、高齢者が地域で生き生きと生活できるように「暮らしを支える医療、健康づくり」が重要となってきます。生活を支える医療の一環として看護部は、平成 24 年度から看護専門外来を設置しました。専門的な知識や技術をもった看護師が、自己管理に関する指導・助言・相談など、在宅療養の継続がはかれるように患者や家族を支援していく窓口をつくりました。また、脊椎の病気で生

活できにくい患者もいますので、院内認定資格を取り入れ「院内認定：脊椎ケア看護師」として、専門的なかわりをおこなっています。大学病院は訪問看護ステーションを併設できませんが、地域包括ケアの視点から訪問看護チームを立ち上げ、退院前、もしくは退院後の生活の場をみてアセスメントをおこない、より充実した在宅移行支援ができるように実施しています。病院としての取り組みでは、平成 25 年度から医療支援室（看護師長が担当）を設置し、院内のチーム活動の支援と、地域の医師会や消防署、訪問看護ステーションなどと連携をとり、研修会や事例検討会の企画・運営をおこない、関係者間の連携の強化と医療の質向上に取り組んでいます。健康づくりにも関与し、かつらぎ町の特定健診に協力し予知・予防に取り組んでいます。

まだまだ、課題も山積みしていますがチーム力で頑張っていきたいと考えています。

WLB 推進ワークショップ

支援者 角谷 知恵美

9月17日(火)、18日(水)でワーク・ライフ・バランス推進ワークショップを開催しました。参加施設は平成 23 年度から 4 施設、24 年度からは 2 施設です。

17 日の午前中は公開講座で、「労働環境」と「民間企業における取組」について講義を受けました。午後から翌日にかけて 4 施設は 3 年間の取り組みの最終年であり、2 年間の取り組みを評価し、残された問題・課題をどのように解決していくか、2 施設は昨年からの取り組み状況の結果と今後の課題を明確にする作業を行いました。次回、平成 26 年 1 月のフォローアップワークショップで取り組みについて報告予定となっています。



まちの保健室・看護のお仕事相談

三向陽高校文化祭に参加

「まちの保健室」委員長 中村優子

今年もまた、9月12日(木) 県立向陽高校文化祭で「健康チェック・看護のお仕事相談」を開催しました。

高校生57名を含む計218名の参加がありました。高校生では男子生徒の参加が多く、白衣体験では「憧れの手術衣がきかれて嬉しかった」という声が聞かれました。

一般参加者からは「幅広い活動に驚いた」「高校での開催は若い人達へも良い参考になる」という感想をいただき、今後の活動の励みとなりました。6名の協力員の皆様、有難うございました。



第16回

プレゼント!

「足まくら」
を
2名様に!

どちらか1つ
当たります!

「図書券」
1,000円分を
3名様に!

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所
⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、
11月25日(月)までにお送り下さい。(消印有効・1人1通のみ)

抽選の上、当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。



宛先

〒641-0036 和歌山市西浜 1014-27 和歌山県看護協会 「10月号プレゼント」係

プレゼント
応募者の
声

- 看護協会の日々の進捗が良くわかり、私の看護師としての知識も増やせます。たくさんの方が掲載されていて読むのが楽しいです。
- 身近な情報等いつも楽しく読んでいます。
- いつも皆さんの看護観を感じる事ができ勉強になります。

☆抽選の結果、足まくら、図書券をお送りしました。



お陰様で創立60周年を迎えさせていただくことができました。

東洋羽毛のゴア® 羽毛ふとん

汚れのもとになるものはふとんの中に入りません。

寝ているときの汗はこもりません。

まるでふとんが呼吸をするように

いつも衛生的で心地よい温かさを保ちます。

温かいを超えた至福の寝心地を、

是非お試しください。



TUK

東洋羽毛関西販売株式会社

和歌山営業所
〒640-8329 和歌山県和歌山市田中町2-18-1-2F
☎ 0120-32-7766

ホームページアドレス <http://www.toyoumo.co.jp>

清潔・きれい・衛生
Bedding Products

和歌山県看護協会の動き

平成25年度第5回理事会

開催日時：平成25年10月4日（金）13:00～17:00
会場：B室

協議事項

1. 新看護研修センター
トランスコスモス研修施設増改築について 承認

報告事項

1. 日本看護協会関連会議
 - 1) 第4回理事会報告
 - 2) ナースセンター事業担当者会議
2. 事業実施報告及び直近の事業予定
 - 1) 各委員会担当理事より

- ①保健師職能委員会
- ②助産師職能委員会
- ③看護師職能委員会Ⅰ・Ⅱ
- ④災害看護対策委員会
- ⑤WLB推進委員会
- ⑥日本看護学会成人Ⅰ準備委員会
- ⑦その他

3. 和歌山県行政及び関連団体会議参加
4. その他
 - 1) 第42回医療功労賞 候補者推薦について

平成25年度第1回施設会員代表者会

平成25年8月4日（日）和歌山県看護研修センターで、施設会員代表者会を開催致しました。午前中は特別講演として、日本看護協会会長 坂本すが氏をお迎えして「看護の未来を拓く」というテーマで、ご講演を頂きました。

参加者は125名で、内容は2025年問題に向けて看護職として何を考え、何をしなければいけないのか、これからの未来の看護師のありかたについてなどパワー全開の講演でした。

参加者からは「看護の原点を改めて見直す機会となった。『シンカ』を続ける看護部になる様頑張る」「自分がこれまで取り組んでいたことが間違っていないことが確認できた」「今後の方向性を考える機会となった」「人を巻き込む、菜配する力を持つことの大切さ、看護とは何かを改めて考える時間となった」「今年も講演を聞きパワーをもらった」。などの感想が寄せられました。

午後は、和歌山県看護協会会長から「日本看護協会・和歌山県看護協会の動向」についての講演の後、「働きやすい労働環境づくりと看護職の確保定着の取り組み」について活発な意見交換が行われました。



新看護研修センター建設資金としてご寄付を頂きました

今年度、定年退職を予定されている2名の看護管理者の方から、「新看護研修センター建設資金の一部にして頂きたい」ということで、各々10万円、計20万円のご寄付を頂きました。ご支援心より感謝申し上げます。



●発行責任者／看護師職能委員長 東 直子 ●編集／看護師職能委員会

あなたのために、できること
あなたに、できること

夜勤・交代制勤務の課題

1 医療安全上の課題

サーカディアンリズムに反して夜間に働くことは、睡眠パターンの変調や十分な休息が取れない状態が長時間続き、疲労が蓄積し注意力や判断力が低下し、それだけで医療事故等を起こすリスクが高まります。

2 働き続けられる勤務環境上の課題

夜勤・交代制勤務の負担を最小にして勤務を継続しやすいようにするためには、労働時間管理が重要になります。

3 個人の課題

看護職が生涯にわたり、安全に、健康に、自分たちの生活も豊かにしながらこの夜勤という職務を担って行くためには、看護職自身も夜勤の負担について認識し、夜勤・交代制勤務のもとでの生活を適切に送っていくための努力をしていくことが必要です。

三ご案内三施設の管理者・教育担当者の皆様へ

日本看護協会では2012年4月「継続教育の基準 Ver. 2」を作成され、各施設ではご利用頂いていることと思います。

この度2013年3月「継続教育の基準 Ver. 2」活用のためのガイドが作成されました。

この指針を、看護管理者や教育担当者の皆様にご活用いただき、更なる院内の教育体制充実、看護の質向上に役立てていただければと願っています。



三禁煙外来のご紹介三 海南医療センター 内科外来 千畑 仁 美

当院では、平成17年より禁煙外来を開始しました。しかし、館内禁煙であり保険診療の適応ではなかったため受診者が余り増えませんでした。平成21年12月より敷地内禁煙となり保険診療にて禁煙治療を受けることが可能になりました。その後受診者も増えてきました。禁煙外来は、毎火曜日14時～16時で2週間毎に3か月間受診して頂き、完全予約制になっています。

初診時に ①心理テスト(ニコチン依存度テスト・喫煙タイプ質問表)の記入 ②依存度をチェックし、タイプ別の代替療法を指導 ③喫煙の害や禁煙方法を禁煙ガイドに沿ってスライドで指導 ④患者様がニコチンパッチまたは飲み薬にするかを選択 ⑤禁煙開始日に禁煙理由を明確にするための禁煙宣言書の記

入、以上5点を行います。2回目以降は、マイクロ・スモーカーライザーによる呼気一酸化炭素濃度測定と禁煙状況のチェックを行い、一酸化炭素が減少していくのを体感して頂きます。診察時間は、初診時には説明と指導に約1時間を要しますが、2回目以降は5～10分間程度です。過去8年間で81名中51名が禁煙に成功し、医師から卒煙証書が手渡されました。

禁煙治療は、薬だけを使っていれば禁煙できるのではなく、医療者と患者様との関わり合いのなかで、動機づけや禁煙達成の自信を強化していくことが、行動変容を成し遂げる大きな鍵となります。今後も積極的に関わり禁煙成功者を増やしていくと共に、禁煙外来受診への働きかけを続けていきたいと思ひます。